

**伝道の書結晶の学び#12:空の空、イエスにあるあの実際、神の子たちの出現**4/19-25 **OL Summary: I. 「空の空、すべては空である」(伝道1:2):** A. 伝道の1:2~11で、私たちは見ますが、この書の主題は空の空です/伝道の書の中心思想は、日の下では、墮落して神から離れた人生は空の空であるということです/伝道の書の内容は、日の下での墮落した人類の腐敗した世にある人生の記述です/伝道の書におけるソロモンの教えは、腐敗した世にある人生が空であり、風を捕らえるようなものであるということを示しています/伝道の書によれば、人の歴史は、その初めから現在に至るまで、空です/ある事がどれほど良く、卓越し、すばらしく、不思議であっても、それが旧創造のものである限り、それは日の下にある空の空の一部分です/天にあり、「日の下」にない新創造だけが、空ではなく実際です。B. 詩篇39:4~6で、ダビデは自分の命の無とむなしさを認識しました/この詩篇で、ダビデは神によって、自分が無でむなしと認識する点にまでもたらされました。ダビデは、すべての人がその盛んな時でも全くむなしことを学びました/私たちの状態が罪深く、私たちの状況がむなしと認識することは、キリストのために道を開いて、キリストが私たちを十字架につけ、私たちの中へと入って、私たちを通してご自身を生かし出すことによって、また私たちが有機的結合の中で彼と共に生きようようにすることによって、私たちを置き換えます。これはパウロがガラテヤ2:20で表明しているようにです。C. 人が神によって創造されたのは、最高の、最も高貴な定められた御旨をもってです。それは、神の神聖な命と性質をもって、神のかたちにおいて神を表現することです/神の敵、悪魔サタンが入って来て、罪としての彼自身を、神が彼の定められた御旨のために創造した人の中へと注入しました/この人の墮落を通して、人と、神が人に管理するように託した全被造物は、虚無(vanity)に服従させられました。こうして、腐敗した世での人生は空となりました。D. 腐敗した世にある人生は空であり、風を捕らえるようなものですが、私たちは神が人の心に永遠を置いたことを認識する必要があります/伝道の書3:11の「永遠」は、「神が植えた、歴代、働いている、一種の目的のある感覚です。日の下では、神以外に、何もこの感覚を満足させることはできません」/神は人をご自身のかたちに創造し、人の中に霊を形づくって、人が神を受け入れ、内容とするようにしました。また、人に神ご自身を追い求める心を与えて、神が人の満足となるようにしました/人は神から墮落し、罪がサタンを通して入って来て、人が神を彼の満足のために受け入れることを妨害しましたが、神に対する渴望、神を追い求めることは、なおも人の心の中に残っています。II. エペソ4:17~21と24で、パウロはイエスにあるあの実際を提示しており、それは、私たちがもはや思いのむなしさの中を歩かないためです。A. エペソ4:17で、パウロは信者たちに、「もはや...異邦人が彼らの思いのむなしさの中を歩くように、歩いてはなりません」と勧めています/墮落した人類の日常生活の基本的な要素は、思いのむなしさです/異邦人、諸国民は、墮落した人であり、彼らの思考はむなしになりました/彼らは神もなく、思いのむなしさの中を歩いており、彼らのむなし思想に制御され支配されています/神の目に、また使徒パウロの目に、この世の人が思うこと、言

うこと、行なうことは何であれ、むなしさにすぎません/思いのむなしさの中を歩く諸国民は、その心のかたくなさのゆえに、理解することで暗くなっています。B. エペソ4:17と21には、イエスにあるあの実際と墮落した人の思いのむなしさとの対比があります:墮落した人の不敬虔な歩みにはむなしさがありますが、イエスの敬虔な生活には実際があります/イエスにあるあの実際は、24節で述べられている新しい人の「あの実際」です/あの欺きは、サタン的人格化であり、あの実際は、神的人格化です。あの欺きは悪魔であり、あの実際は神です/神はあの実際であり、イエスの生活の中で展覧されました/イエスにあるあの実際とは、四福音書に記録されている、イエスの生活の実際の状態です/主が彼の人の生活の中で行なったことはすべて、神の表現であり、それゆえ実際でした/イエスのこのような実際にしたかった生活は、信者の生活の模範です/私たちは、キリストを学び、彼の中で教えられて、実際の生活をする必要があります/私たちは、キリストのからだの肢体として、イエスにあるあの実際にしたかって、実際の生活をすべきです。それは神を表現する生活です。C. 私たちは、イエスにあるあの実際の中で生きることができます。なぜなら、「私たちは真実な方の中に...いる」からです/「真実な方」は、神が私たちに対して主観的になることを指しており、客観的な神が私たちの生活と経験の中で真実な方となることを指しています/真実な方の中にいることは、御子イエス・キリストの中にいることです。なぜなら、主イエス、神の御子は、真の神であるからです。III. 被造物は虚無に服従させられているので、神の子たちの出現を熱心に待ち望んでいます。「それは被造物自身も、朽ち果てる奴隷状態から自由にされて、神の子供たちの栄光の自由に入る望みがあるからです」A. サタンが自分自身を罪として人の中へと注入した結果、人と全被造物は朽ち果てる奴隷状態の中へともたらされ、虚無に服従させられました。B. 被造物は切なる期待(完全に集中して期待すること)をもって、「神の子たちの出現を熱心に待ち望んでいます」/出現とは、以前は覆われ隠されていたものが、明らかにされ出現することです/主が再臨される時、私たちは栄光化され、体は完全に贖われて、おおいに取り除かれます。C. 全被造物は今は虚無と腐敗の状態の中に拘留されていますが、神は彼の王国をもたらし、現在のこの状態を対処されます/来たるべき王国は、神の栄光の王国となり、神の出現した子たちでおもに構成されています/神の栄光は、神の王国と並行し、神の王国の領域の中で表現されます/神の王国は、私たちが神聖な支配の下で、神の栄光に入るという展望をもって、神を礼拝し神を享受する領域です/王国は、神がご自身の力を行使する領域であり、それは神がご自身の栄光を表現するためです/王国の輝きは、御父の栄光が現されるためです/神の王国は、神が彼の神聖な行政のために、彼の栄光の中で、彼の権威をもって現れることです。ですから、神の王国に入ることと、神の表現された栄光に入ることは、一つの事として同時に起こります/被造物は、神の王国が来るのを切に期待し、熱心に待ち望んでいます。王国が出現する時、全被造物は自由にされ、出現した神の子たちは虚無(vanity)から救い出されて、「彼らの父の王国で太陽のように輝く」でしょう。



**CP1: 召会生活の中で、主を愛し、主を追い求めることが実際であり、それ以外は空である**

**OL1:**伝道の書によれば、人の歴史は、その初めから現在に至るまで、空です。ある事がどれほど良く、卓越し、すばらしく、不思議であっても、それが旧創造のものである限り、それは日の下にある空の空の一部分です。**伝道1:2** 空の空、伝道者は言う。空の空、すべては空である。9 前にあったことは、後にもあり、前に起こったことは、後にも起こる。日の下に新しいものは何もない。14 私は日の下で行なわれるすべてのわざを見たが、見よ、すべては空であって、風を捕らえるようなものである。

**OL2:**私たちがこの空を逃れる道は、神に戻り、キリストにある神を、贖い、命、富、享受、快樂、満足とし、私たちがなおも神に用いられて、神が人を創造した当初の定められた御旨を成就し、神の永遠のエコノミーを完成することです。**OL3:**暫時的な事物は決して人を満足させることはできません。永遠の神、すなわちキリストだけが、人の心の深い、目的のある感覚を満足させることができます。**伝道3:11** 彼はすべてを造り、時にかなって美しくされた。また、彼は彼らの心に永遠を置かれた...

私たち自身の経験によれば、私たちは人生で成功するときはずっと、また空虚な感覚を持つことを知っています。これは人の内側に、永遠の事柄に対する渴望があることを示しています。神は人の心の中にそのような渴望、そのような探求を置いて、人が神を追い求めるようにされました。あらゆる人、特にあらゆる思慮深い人は、内側に永遠に対するこの切望と探求を持っています。

この賢い王は、神はすべてを創造し、時にかなって美しく、また人の心に永遠を置かれたと言いました。これは私たちの人の経験と符合します。人はどれほど金持ちになり、成功したとしても、やはりむなしさを感じています。人は深い所で永続するものを求めています。永続するものだけが永遠のものです。詳訳聖書は言っていますが、人の心にある永遠は、「神が植えた、歴代、働いている、一種の目的のある感覚です。日の下では、神以外に、何もこの感覚を満足させることはできません」。

神が人を創造することには、三つの強調するものがあります。それは神のかたち、神を受け入れるための人の霊、日の下では神以外に何も満足させることはできないという、歴代、働いている、目的のある、私たちの心の中の、神が植えた感覚です。雅歌で描写されたロマンスは、主から始まっているのではなく、追い求める者から始まっています。人がそのように追い求める者となるのは、人の内側に永遠のものを追い求めようとする目的のある感覚があるからです。神ご自身、すなわちキリスト以外に、この目的のある感覚を満たすもの、満足させるものはありません。多くの人々は、私たちが時間を浪費していると思っているのですが、実は時を贖っているのです。一時的な物を追い求める者が、時間を浪費しています。彼らは無意味なことに忙しくしています。彼らが忙しくしているのは一時的なことのためであって、永遠のためではありません。全宇宙で唯一の方だけが永遠であり、永遠の神です。

**適用: 新人及び青少年・大学生編**

旧約聖書の伝道の書の後は雅歌です。伝道の書は「すべては空である」(伝道1:2)と言いますが、雅歌は、

主を愛し、追い求めて満足を得ることを言っています。これは、召会生活の中で、主を愛し、主を追い求めることは実際であり、それ以外は空であることを示しています。あなたは自分の学校生活やビジネスライフが実際であり、おまな生活で、召会生活は付属的なものであると考えてはいけません。実はその逆で、召会生活が実際で、学校生活やビジネスライフが付属的なものです。

しかし、付属的であるのでいい加減に扱ってもいいということではありません。学校生活やビジネスライフは、キリストを経験するための環境です。勉強であれ、仕事であれ、主の中で勤勉に取り組み、キリストを経験してください。そして、経験したキリストを持って召会を建造してください。学校生活やビジネスライフをおまな生活にすると、それは空の空となります。

例えばあなたが博士になっても、あるいは社長になっても、召会生活の中で主を愛し、共に建造されないなら、これらの達成は空の空です。しかし、それを召会生活のための付属的なものにすれば、召会建造のゆえにあなたの学校生活やビジネスライフは祝福されるでしょう。

**IIコリント4:18** 私たちは見えるものではなく、見えないものに目をとめます。なぜなら、見えるものは一時的ですが、見えないものは永遠であるからです。**Iペテロ1:8** あなたがたは、その方を見たこともないのに愛しており、その方を今、見ていないのになお信じており、言葉では言い尽くせない、栄光に満ちた喜びをもって歡喜しています。

**姉妹の大学院卒業の証し:**新しく始まった小学校の英語教育の研究をするために、7名の小学校教諭が選ばれて教育大学の修士課程に行きました。私はその中の一人でした。私だけは、大学院のネイティブの教授に付き、英語で修士論文を書きました。主に感謝します。修士論文を完成させた後、3月末のZoom福音主日集会のファシリテーターの奉仕を全時間奉仕の姉妹と取り組んですることになりました。また、詩歌の賛美の中でサクソホーンを演奏しました。兄弟姉妹と組み合わせられて準備する時、とても享受がありましたので、福音をする負担が出てきました。

私は以前、福音に積極的ではありませんでした。しかし、主を享受するうちに自然に負担が出てきて、積極的に9名の福音友人を誘いました。結局、大学院の副指導教授とその二人の娘さん、そして私の母の4名が参加できました。Zoomなので、彼らにとって参加しやすかったと思います。ファシリテーターの奉仕も姉妹と組み合わせられ、主の中で行うことができました。からだの組み合わせの奉仕には、すばらしい享受があります。主が大学院の進学と福音集会の奉仕の機会を与えて下さったことに、感謝します。4月から新しい小学校で働き始めましたが、主を経験して、証しのある小学校教諭になりたいです。

**祈り:**おお主イエスよ、学校生活やビジネスライフを忙しく過ごしていると、それが実際であると感じてしまうことがあります。しかし召会生活が実際です。召会生活を付属的なものと捉えると、祝福を逃してしまいます。勉強や仕事において、主の中で勤勉に取り組み、キリストを経験します。主を愛し追い求め、主に満たされて、福音を伝え、召会建造のために奉仕にあずかります。そうすれば真の満足を得ることができます。



**CP2:**主の御名を呼び求め、思いを霊に付け、金銭欲、出世欲、競争心などの思いのむなしさから解放される

**OL1:** 墮落した人の思いがむなしさで満ちるとき、彼らの理解することは、神の事柄において暗くなります。墮落した人の心のかたくなさは、理解することでの暗さと、思いのむなしさとの源です。**エペソ4:17** こういうわけで、私はこの事を言い、また主の中で証しをします。もはやあなたがたは、異邦人が彼らの思いのむなしさの中を歩くように、歩いてはなりません。**OL2:** イエスの人の生活は、あの実際にしたがついていました。すなわち、神ご自身にしていた。イエスの生活の本質は実際でした。彼の歩みは常に実際の中にありました。**20** しかしあなたがたは、そのようにキリストを学んだのではありません。**21** もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがついて教えられているのであれば。

今日の世の富、名声、地位、娯楽、物質的な財産はすべてむなしさです。しかし、人なるイエスの日々の生活の中ですべては実際です。彼が人の生活の中で行なったことは何であれ、実際です。彼の言葉のうちの一語も、むなしさはありませんでした。キリストは私たちにとって命であるだけでなく、模範でもあります。彼は地上での生涯において、福音書に啓示されているように、一つの模範を設定されました。次に彼は十字架につけられ、復活させられて、命を与える霊と成られました。こうして彼は、私たちの中へと入って、私たちの命となりました。私たちは彼の模範にしたがついて、彼から学ぶのですが、それは、私たちの天然の命によってではなく、復活における私たちの命としての彼によってです。

日々の歩みにおいて、人なるイエスは偉大であっただけでなく、とても細やかでもありました。例えば、彼は五つのパンと二匹の魚で五千人の男たちを養われたとき、...弟子たちに指示して、残っているかけらを集めて少しも失わないようにさせました。それらは全部で十二の手かごにいっぱいになりました。四福音書は、主の日々の生活のあらゆる詳細にはむなしさがなく、ただ実際だけがあつたことを啓示しています。さらに、私たちは四福音書のほとんどすべてのページにおいて、イエスの敬虔な生活にある実際と、彼の周囲の人たち、例えば、彼の反対者たち、また彼の弟子たちのような人たちの生活にあるむなしさとの顕著な対比を見ます。

**エペソ4:29** 腐敗した言をあなたがたの口から出すことなく、必要に応じて、建造するのに良い言だけを語り、聞く人たちに恵みを与えるようにしなさい。これが示していることは、私たちが重要な事柄のためだけでなく、日常生活の詳細のために恵みを必要とするということです。

#### **適用:ビジネスパーソン・大学院生編**

ビジネスパーソンは思いのむなしさ、例えば、金銭欲、出世欲、競争心などで満たされないように注意してください。しかし、それは社会人として責任を果たさない、怠惰で、現実を逃避する方法ではありません。責任を果たさない人は、自分には競争心がないと言いますが、それはただ怠けているだけです。社会人として、自分を支え、家族を支え、召会を支え、社会を支えるために、勤勉に必死で働く必要があります。このように責任を果たそうとする時、必ず競争心や金銭愛などが心に湧いて来ます。その時、あなたは主の御名を呼び求め、思いを霊に付

けて、これらのむなしさから解放されることができます。**エペソ4:17FN** **思いのむなしさ:** 異邦人は墮落した民であり、彼らの思考においてむなしくなりました。彼らは神もなく、思いのむなしさの中を歩きます。そして、彼らのむなししい思想によって支配され、指図されます。彼らが墮落した思いにしたがつて行なうことは何であれ、空であり、実際がありません。**18** 彼らは、理解することで暗くなり、彼らの中にある無知のゆえに、その心のかたくなさのゆえに、神の命から遠ざかり、**18FN** **理解することで暗くなり:** 墮落した人の思いがむなしさに満ちる時、彼らの理解することは、神の事柄に関して暗くなります。こうして、彼らは神の命から遠ざけられ、分離されます。**FN** **神の命から遠ざかり:** 人は、思いのむなしさの中へと落ち込み、その理解することで暗くなってしまいました。今や、そのような墮落した状態の中で、人は神の命に触れることができません。それは、人が悔い改めて(思いを神に向けて)主イエスを信じ、神の永遠の命を受けてはじめて可能です。**FN** **心のかたくなさ:** 墮落した人の心のかたくなさは、理解することで暗くなることと、思いのむなしさの源です。

**兄弟の証し:** 私が、米系の大手医療機器会社の日本法人のNo.2として働いていた時、2016年10月に米国本社役員になるオファーがありました。当時、主の祝福により業績が非常に祝福されていました。オファーの直前に主が照らして下さり、「召会が停滞し始めているのに、あなたは仕事ばかりしている場合であろうか?」と言っておられると感じました。仕事をやめた方がいいのではないかと考えて、姉妹とそのことを交わり、姉妹も会社を辞めることを同意してくれました。その数日後、米国本社VPからこのオファーがありました。私は既に仕事を辞めることを決めていたので、すぐに断りました。その人は私が、良く理解していないのではと考え、再度オファーについて説明してくれました。私は丁寧にはっきりと断りました。その半年後に辞任することを、米国本社に認めてもらい、約一年後の2017年末に退職することができました。このアウトラインは、昇進、富、名誉は空であり、日の下で行なわれるわざはすべて、空であつて、風を捕らえるようなものであると明確に述べています。私の内側には人の霊があり、この霊は永遠の神を渴望し、神に仕えることを渴望します。私はこの霊の渴望に注意を払ったので、このような人の目からすると卓越したオファーをほとんど躊躇することなく直ぐに断ることができました。

2015~2016年頃、召会は徐々に人数の増加が停滞し始めていましたが、この後2017年から再び人数が10%以上成長し始めました。更に、10%成長で満足してはいけなことが分かり、2020年には20%成長することができました。2018年8月から起業しましたが、少なくとも50%以上の時間を召会のために使うようにしています。**祈り:** 主よ、社会人として、自分を支え、家族を支え、召会を支え、社会を支えるために、勤勉に必死で働く必要があります。そのために責任を果たそうとして一生懸命になると、競争心や金銭愛などが心に湧いて来ますが、その時私は主の御名を呼び求め、思いを霊に付けて、これらのむなししいものから解放される必要があります。異邦人のように思いのむなしさの中を歩くことなく、勤勉に働き、主に仕え、あらゆることで主を恵みとして享受できますように。



**CP3:**神の子たちの成長は、全被造物の奴隷状態からの解放をもたらすので、信者は自分を軽んじてはいけません

**OL1:**被造物は虚無(vanity)と朽ち果てる奴隷状態に服従させられているので、日の下にあるあらゆるものは空(vanity)なのです。現在、被造物は、腐敗と腐朽の法則の下で奴隷とされています。被造物の望みはただ、神の子たちが出現する時に、朽ち果てる奴隷状態から自由にされて、神の子供たちの栄光の自由に入ることです。**ローマ8:19** 被造物は切なる期待をもって、神の子たちの出現を熱心に待ち望んでいます。**20** なぜなら、被造物が虚無に服従させられたのは、自分の意志からではなく、それを服従させた方によるのであって、**21** それは被造物自身も、朽ち果てる奴隷状態から自由にされて、神の子供たちの栄光の自由に入る望みがあるからです。**22** 全被造物は、今に至るまで共にうめき、共に産みの苦しみをしていることを、私たちは知っています。**23** そればかりではなく、その霊の初穂を持つ私たち自身も、自らの内でうめきながら、子たる身分、すなわち、私たちの体の贖いを、熱心に待ち望んでいるのです。**OL2:**神は、私たちを彼の王国と栄光の中へと入るように召しました。**マタイ6:10** あなたの王国が来ますように。あなたのみこころが天で行なわれているように、地でも行なわれますように。**13** ...それは王国と力と栄光とが、永遠にあなたのものであるからです。アーメン。

もし私たちが街頭で人々に、自分は神の子であると言うなら、私たちは気が狂っていると彼らは思うでしょう。彼らは言うでしょう、「あなたと私を見てみなさい。どこに違いがありますか？ 私たちはいずれも人です。あなたは私と違っていません。あなたはただもう一人の人です。なぜあなたは自分が神の子であると言うのですか？」。しかしながら、神の子たちが現される日が来ます。その日には、「今から、私たちは神の子たちである」と宣言する必要はないでしょう。なぜなら、私たちはみな栄光化されるからです。私たちは栄光の中にあり、神の栄光によって子と明示されるでしょう。その時、他のすべての人は、私たちが神の子たちであることを承認しなければなりません。彼らは言うでしょう、「この人たちを見てください。あのように栄光に満ちているこれらの人たちはだれでしょう？ 彼らは神の子たちであるに違いありません」。

あなたが未信者と話すなら、彼らは、ダンスやギャンブルのような娯楽を享受していると言うでしょう。しかし、彼らはまた、自分たちは不幸であるとも言います。...彼らはうめいているのですが、うめいているだけです。ほかに何もありません。私たちは、その反対に、うめきながら、内側にその霊を初穂として、神ご自身の前味わいとして持っています。たとえ私たちは苦しんでいても、享受があります。私たちは主の臨在を味わっています。主の臨在とは、私たちの享受のための初穂であるその霊にほかなりません。ですから、私たちはこの世の人たちとは違います。彼らは内側の享受なしにうめきを経験します。しかしながら、私たちは外側でうめきますが、内側で歓喜します。...私たちが歓喜するのは、その霊の初穂を持っているからです。私たちの内側の神聖な霊は、神の享受の全き味わいに導く神の前味わいです。これは子たる身分の祝福の大きな項目です。

**適用:奉仕者編**

**ゼカリヤ12:1** 天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる。

神の目から見ると、宇宙には三つの大きなものがあります。それは天と地と人です。宇宙の中で、神は天に注目し、地に注目し、人の霊に注目しています。ですから、あなたは自分自身を軽んじてはいけません。あなたの中には霊があり、あなたの霊は、天と地と同列に置かれています。...天は地のため、地は人のため、人は神のためです(食べることの主の回復#1)。

奉仕者の兄弟姉妹たちは、上記のゼカリヤ書の啓示の上に、ローマ8:19～23の全被造物が神の子たちの出現を待ち望んでいることを認識すべきです。**19FN** **神の子たちの出現:**以前に覆われ、隠されていたものが、明らかにされ、出現することです。私たちは、神の子たちであるとしても、覆われており、まだ出現していません。主が再臨される時、私たちは栄光化され、体は完全に贖われて、おおいに取り除かれます。被造物はこのことを熱心に待ち望んでいます。この出現は、今私たちが経ている、子たる身分に定められる過程の完成となります。

ある意味で、あなたは大観衆の前で競技しているオリンピック選手のようなものです。大観衆はあなたに注目し、あなたを応援しています。同様に、全被造物はあなたが毎日成長することを応援しています。

更に全被造物は、あなたを応援し、あなたの活躍に一喜一憂する観客であるだけでなく、あなたと運命を共にしています。あなたの成長は、再生に始まり、魂の造り変えを経過し、最終的に体の贖いに至ります。その時、全被造物は奴隷状態から解放されます。

このことを知る時、あなたは個人主義から解放されます。あなたの成長は召会に影響を与えるだけでなく、全被造物に影響します。従って、あなたは自分が良ければそれでいいとか、自分は弱くても誰にも迷惑をかけているわけではないので構わないと考えてはいけません。あなたが主の中で成長するなら、あなたを応援している全被造物は神の子の出現が近づいていることを知って、喜びます。しかし、主の中で成長しないなら、サタンと彼の軍勢の餌食になり、彼らに加勢することになります。

現在、あなたは魂の造り変えの段階にあります。造り変えられるために、あなたは自分の魂の命を十字架に付け、霊の中のキリストを生きるべきです。あなたは自分が「こうしたい」、或いは「こうしたくない」と言う時、内側の主はどうなのだろうと考え、思いを霊に付けて主に尋ねて、キリストに内側で生きていただくべきです。**ガラテヤ2:20** 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。

**祈り:**おお主イエスよ、被造物は虚無と朽ち果てる奴隷状態に服従させられており、被造物は切なる期待をもって、神の子たちの出現を熱心に待ち望んでいることを知りました。私が命の中で成長することは、召会に影響を与えるだけでなく、全被造物に影響しますので、個人主義に陥っている場合ではありません。私は主の中で全被造物のリーダーとしての自覚を持ち、外側でうめいても、内側でその霊の初穂を享受し、成長します。